

新型コロナワクチン接種後の副反応への対応方法

(ファイザー社、武田 / モデルナ社のワクチンについて)



接種後に起こる可能性のある症状（副反応）

- 新型コロナワクチンは、非常に高い効果があります。一方で、接種後に体内で免疫ができる過程で、**接種部位の痛み、発熱、倦怠感、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢等**の症状が現れることがあります。
- 厚生労働省では、国内数万人を対象に、新型コロナワクチン接種後の健康状況調査※を実施しましたので、調査結果から、症状の経過等の概要をご報告します。



接種後の症状の経過・頻度

- いずれの症状も、大部分は接種の翌日をピークに発現し、数日以内に回復しました。
- 最も多く見られたのは **接種部位の痛み** で、1回目、2回目接種後いずれの場合も、接種翌日は80%以上の方に見られました。
- **発熱** や **全身倦怠感**、**頭痛** 等は1回目よりも2回目の接種後の方が、症状の発現頻度が高くなる傾向にありました(下図)。

発熱 (37.5℃ 以上)

全身倦怠感

頭痛

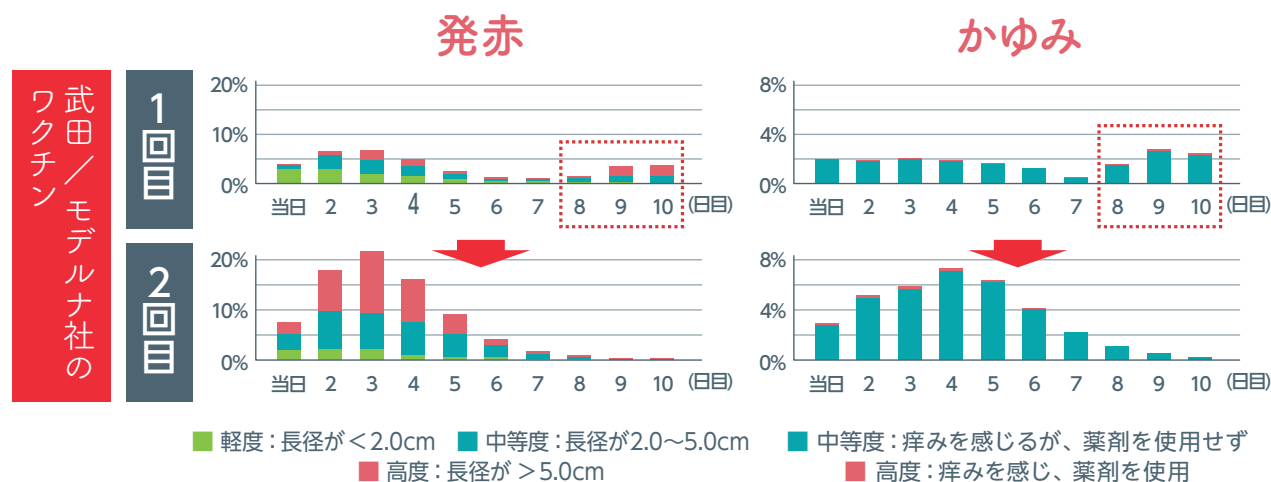


■ 37.5~38℃ ■ 38.0℃以上 全身倦怠感及び頭痛の発現頻度は、「軽度」、「中等度」、「高度」の合計を示しています。

(※)症状の経過等については、健康状況調査(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)の中間報告を基に記述しており、ファイザー社については令和3年7月7日報告分、武田/モデルナ社については同年8月26日報告分です。詳しい情報は厚生労働省ホームページをご参照ください。

接種後の発赤、かゆみの経過・頻度

- 武田/モデルナ社のワクチンでは、1回目の接種から1週間程度経った後に、接種した部位のかゆみや痛み、腫れや熱感、赤みなどの遅延性皮膚反応が見られました。
- ファイザー社の1・2回目、武田/モデルナ社の2回目の接種時には、接種後数日をピークに発赤やかゆみが見られました。



症状が出たときの対応

【発熱や痛み】

- 市販の解熱鎮痛薬（アセトアミノフェンや非ステロイド性抗炎症薬 [イブプロフェンやロキソプロフェン等]）で対応いただけます。
- 発熱時には、水分を十分に摂取することをお勧めします。
- 妊娠・授乳中の方や胃潰瘍・腎機能障害・喘息などの持病のある方は、薬剤師や医師にご相談ください。

調査で使用された薬剤

アセトアミノフェン
ロキソプロフェン
ジクロフェナク
イブプロフェン
アスピリン

【かゆみや発赤】

- かゆい場合は冷やしたり、抗ヒスタミン剤やステロイドの外用薬（軟膏等）を塗ると、症状が軽くなります。こうした成分は、市販の虫刺されの薬などにも含まれています。



※ 症状が重い場合、長引く場合は、医療機関等への受診や相談をご検討ください。

接種後の生活

ワクチンの効果は高いですが、100%ではありません。ウイルスの変異による影響もありえます。接種した後も、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。



健康状況調査

https://www.mhlw.go.jp/stfseisakunitsuite/bunya/vaccine_kenkoujoukyoutyousa.html



副反応への対応方法(動画)

<https://www.youtube.com/watch?v=hUI0W5gxRKO>

